

COCKARA ニュース

●**마음소리** (講座) 「子育てのヒントが見つかる カラータイプ講座」色と性格の不思議な関係」

日時：10月3日(日)
9時30分～11時30分
定員：8名

参加費：500円(お茶お菓子付)
講師：カラータイプ協会インストラクター 大谷美智子さん

●**元氣ごはん食堂**

日時：10月8日(金) 11時～14時
播州百日鶏チキンかつめし定食
店内飲食・テイクアウトできます。
ご予約はFacebook【元氣ごはん食堂】から。(予約優先)

●**カフェSQUAD** (仲のいい仲間)

日時：10月17日(日)、24日(日)
13時～17時

講座・イベント

Pick Up
くらしお役立ち情報
Information

●**마음소리** (韓国料理)

日時：10月20日(水) 11時～13時
45分(二部制・要予約)

テンジャンゲ定食、おかず三種

●**마음소리** (講座) 「子育て講演会 子供の自立を考える」

日時：10月30日(土)
10時～11時30分
定員：8名

参加費：500円(お茶お菓子付)
講師：美藤正人さん(元小学校長)

予約は、QRコードのSNSから
メッセージを送り申し込んでください。
問合先：ふるさと創造課 ☎8706

●**風土記の里ウォーク**
(加西市・三木市共催ハイク)

●**玉丘古墳とギネス地球儀時計散策コース**

※感染防止のためフリーハイクで行います。

日時：10月30日(土)
10時～11時順次出発
集合場所：播磨横田駅
参加費：無料(参加賞あり)
※申込不要
※昼食・飲物等は各自持参
※三木市は11月28日(日)開催
コース：約10キロ

問合先：加西市観光協会 ☎8715
神鉄コミュニティ
ケーシヨンズ
☎078・521・0321

●**ふるさと再発見ハイキング**

●1/2 chokotto 加西アルプスを歩こう

日時：10月24日(日) 9時出発
※雨天中止
集合場所：善防公民館駐車場
参加費：300円(保険代)
※当日参加可
※軽食・飲物等は各自持参
※歩きやすい服装と滑りにくい靴
コース：約6キロ
問合先：加西市観光案内所 ☎8823

●**播磨国風土記講座**

播磨国風土記の初心者向け講演と連続講座を開催します。

●**播磨国風土記(初心者向け講演)**

日時：10月21日(木) 18時～20時
(受付17時30分)

場所：加西市民会館文化ホール
参加費：500円(資料代含)
講演内容：『播磨国風土記』を読む

●**播磨国風土記(連続講座)(全4回)**

日時：11月18日、12月16日、1月20日、2月17日(各月第三木曜日)
いずれも13時30分～15時30分(受付13時) ※詳しくは11月号でお知らせします。

場所：加西市民会館文化ホール
受講料：500円(資料代含)
講師：光田和伸さん(元国際日本文化研究センター准教授)

その他：予約不要
問合先：文化・観光・スポーツ課 ☎8756

●**消費者講座「近年の訪問販売トラブルの手法とその対処法」**

日時：10月26日(火) 13時30分～15時
場所：アステアかさい3階
講師：(公社)日本訪問販売協会 小田井正樹さん

定員：先着20名(受講無料)
講座受講を希望される方は、WEB(QRコード)またはお電話でお申込ください。
申込先：ふるさと創造課 ☎8706



広告

広告

ーコロナの現場からー
遺族に代わり最期を

本誌7月号で「新型コロナと闘う」と題し、加西病院、北はりま消防組合で、コロナに立ち向かう方々を特集し、皆さんから大きな反響をいただきました。依然続くコロナ禍の中、病院や消防と同じように厳しい現場で対応されている葬儀業者さんにお話を伺いました。

コロナ禍の影響でお葬式の間でも新しい様式が求められています。葬儀会社(有) 山口神佛具店様にご協力いただき、知られざる葬儀の現状を取材しました。



(有)山口神佛具店 繁田浩一さん、山口祐生さん

コロナ患者受入れ

「私が提案した時は、もちろん社員は反対でした」。ゆつくりとそう語るのは「かさいフーローレ」を運営する(有)山口神佛具店山口祐生さん。現在、市内で唯一コロナ感染患者の受け入れを行っています。

当時、コロナという病気がまだよくわからない時で、あらぬ噂や風評被害があった時で、社員の不安も当然でした。「市民の方が困っている、不安な思いをしているご遺族の方たちの力になれば」との思いで、情報を徹底的に収集しました。「空気感染はしない、感染は飛沫がほとんどで、きちんと感染予防すれば対応できることがわかり、正しく恐れることが大切だと分かりました」。社員は受け入れに賛同してくれ、プライドをもって仕事をしてくれるようになったといいます。

遺体と会えない

防護服と手袋を装着し、感染対策をして病院へ迎えに行きます。営業担当の繁田さんに遺体からの感染はあるのかと聞くと「コロナ感染患者が病院で亡

くなった場合、ご遺体を看護師がアルコールで洗い、その後納体袋に納めていただけるので感染はまずありません」といいます。

通常は、通夜、告別式をした後、ご家族と最期のお別れという流れになりますが、コロナ感染患者の場合は、病院で納棺し、その後寝台車に棺を乗せ、直接火葬場へお送りします。火葬は他の利用者がいない夕方に行います。立ち合いは葬儀会社のみであり、ご家族が親族が会えるのはお骨になってからだそうです。



コロナ感染患者のご遺体を搬送する防護服。加西病院の感染予防処理がきちんとされているため、簡素化した防護服でも対応は可能である。

新しい葬儀様式

コロナによってお葬式もかな

り変わりました。家族葬がほとんどで、以前のように、友人やお世話になった人、近所の方や遠方の親族を呼ばず、参列者を少なくしたり、会食を取りやめるケースもあるといわれています。「飲食が一番変わりました。故人を供養するとともに参列者への感謝の意を表す儀式の一つである「お通夜ぶるまい」や参列者に出す食事である「非時」も控えて、基本的には持ち帰りにしました」と山口さん。続けて「都会にあるような、お寺様など

伝えたいこと

お葬式は人生1回きりのセレモニーです。しかし、今後も規模が縮小する可能性があります。

「本来ならば、生前にお世話になった方たちに見守られ、お別れするのが一番いい形だと思います。でもそれができない。1日でも早くコロナが終息し、皆さまが集まって制限のない、通常のお葬儀が安心して行える日が来ることを願う」と希望を込められました。

コロナ患者を受入れ始め、1年以上が経過。感染リスクがある中でも使命感でやってこられた山口さんは皆さんへ、「コロナ禍で不安もありますが、突然の不幸に際し、我々は、寄り添い、自信をもって対応しています。安心してお越しいただける準備もしているので、困ったことがあれば相談に来てくださーい」と呼びかけられました。